

## 第1章 就学前児童の状況

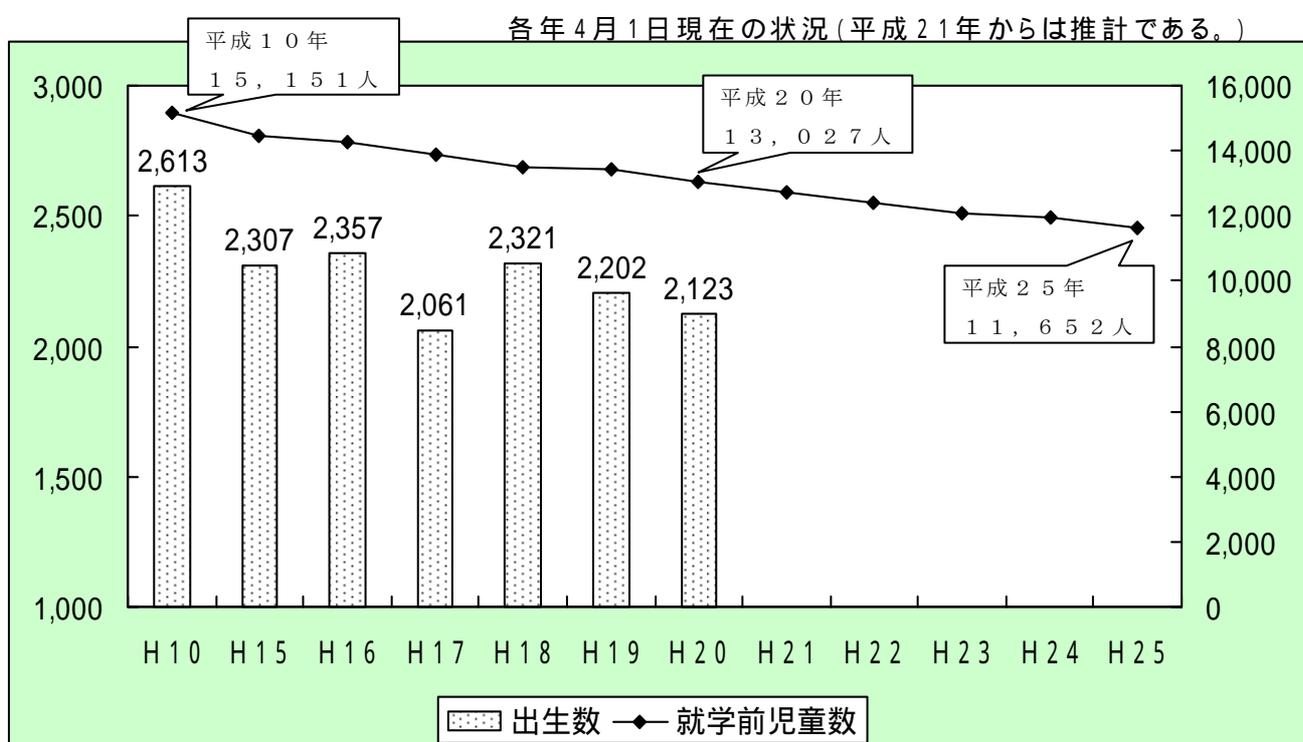
### 1 少子化の進行

本市の出生数は、平成10年の2,613人から平成20年には2,123人に減少している。

また、こうした少子化の進行に伴い、就学前児童数は平成10年の15,151人から、平成20年には13,027人にまで年々減少している。

今後についても、平成25年には11,652人まで減少することが予測される。

図表1-1 出生数・就学前児童数の推移



### 2 保育所・幼稚園の状況

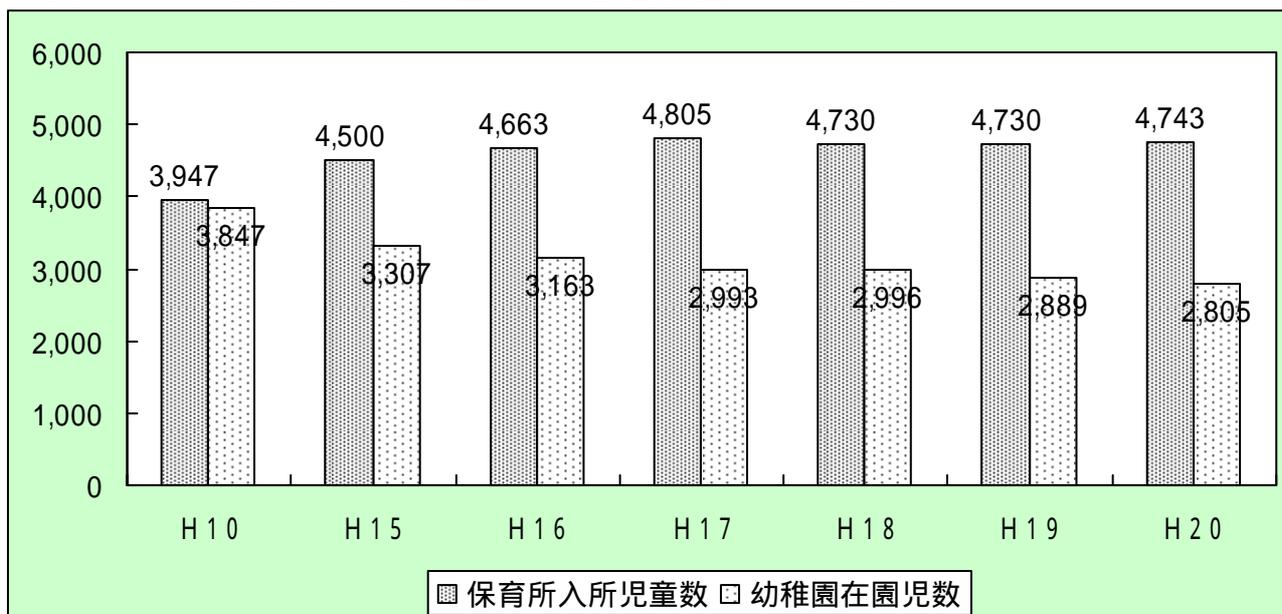
平成20年4月1日現在、本市の保育所数は、市立33園、私立33園の計66園となっている。

また、保育所の入所児童数は、就学前児童数の減少にもかかわらず、平成10年の3,947人が平成17年には4,805人へと短期間に大幅に増加し、それ以降は横ばいで推移している。

一方、幼稚園数は、市立26園、国立1園、私立6園(休園中を除く。)の計33園である。

幼稚園の在園児数は、平成10年に3,847人あったが、少子化の影響を受け、平成20年には2,805人と減少が続いている。

図表1 - 2 保育所入所児童数・幼稚園在園児数の推移



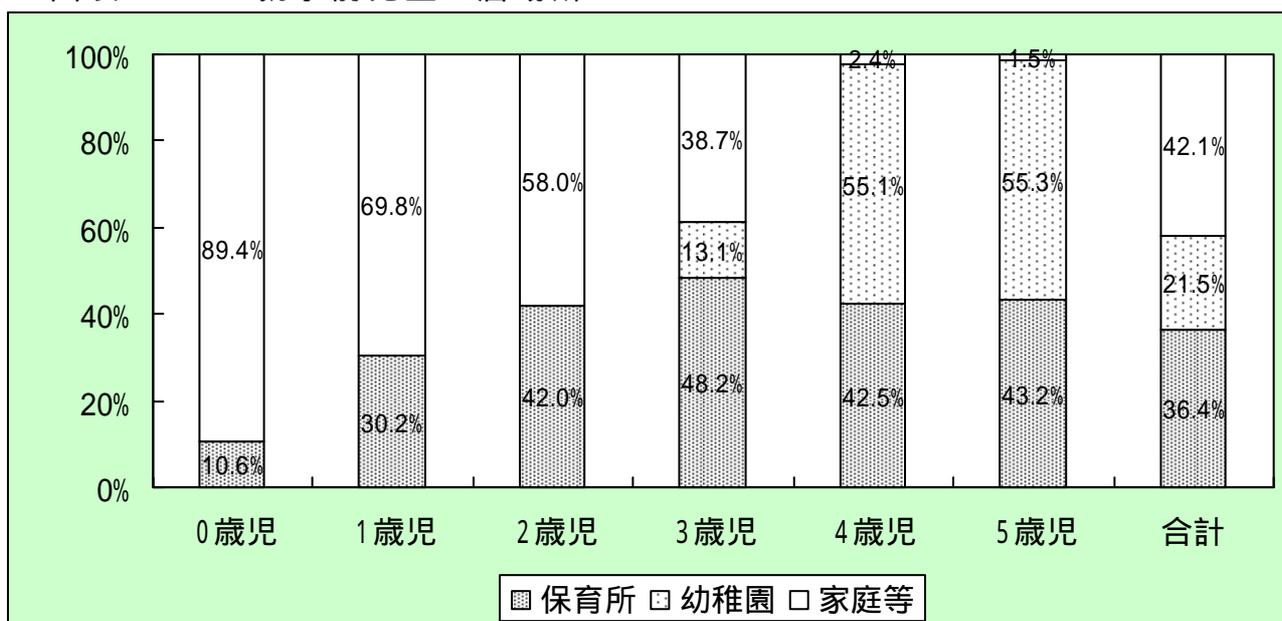
保育所は各年度4月1日現在、幼稚園は各年度5月1日現在

### 3 就学前児童の居場所

0歳児の保育所へ通う割合は10.6%で、1歳、2歳と年齢が上がるにつれ保育所の利用割合が高くなっている。また、4歳・5歳児はほとんどが保育所か幼稚園を利用している。

一方、一般的に育児負担が大きいと言われる3歳未満児は家庭等の割合が、0歳児89.4%、1歳児69.8%、2歳児58.0%と高い。

図表1 - 3 就学前児童の居場所



保育所・家庭等の児童数は平成20年4月1日現在、幼稚園は5月1日現在。  
家庭等には認可外保育施設の利用者を含む。